

【資料】

# 酪農学園大学野生動物医学センターWAMCにおける 傷病鳥獣救護の記録 (2015~2020年度)

林 美穂 浅川 満彦

酪農学園大学獣医学群獣医学類 医動物学ユニット/野生動物医学センターWAMC

## はじめに

酪農学園大学野生動物医学センター(WAMC)は2004年に文部科学省のハイテクリサーチ拠点形成事業の一環として設立され、特に、野生動物における環境汚染物質や病原微生物の保有状況や宿主動物に関する基礎情報の収集分析を行っている<sup>[1]</sup>。しかし、WAMCが附属動物病院構内に設置されたことから、傷病野生動物の救護活動も受け入れ、その報告は2010年度までを吉野ら<sup>[2]</sup>が、2011~2014年度については古瀬ら<sup>[3]</sup>がしている。今回は、それらの続編となる2015~2020年度における救護記録を報告し、その結果と以前の記録<sup>[2,3]</sup>との比較により最新傾向を概観する。

## 2015年度以降の救護記録

2015年4月~2020年9月までにWAMCに搬入された傷病鳥獣の動物種は鳥類が19件、哺乳類が7件の計26件(年平均4.3件)で(表1)、それらの分類群(表2)、救護された原因(表3)と場所(図1)は以下の通りであった。

救護された動物では鳥類が7割以上を占め、狩猟鳥でもあるスズメ、ハシブトガラス、ハシボソガラスおよびバンが含まれた。救護され場所としては、WAMCが所在する江別市が最も多く17件、次いでその周辺地域となる札幌市の2件、南幌町の1件となった。救護要因として不明なもので、飛翔不可能な事例では救護された状況からトラフズク(WAMCで収容された登録番号AS16212)、オオハクチョウ(AS17684)およびハヤブサ(AS

表1. 2015~2020年度にWAMCに搬入された救護個体一覧(上段:鳥類、下段:哺乳類)

AS(登録番号)	目	科	種	性	齢	搬入年月	保護要因	主症状	経過	捕獲地点	周辺環境
15597	スズメ	カラス	ハシボソガラス	不明	成鳥	2015.6	交通事故	元気消失、口内出血	安楽殺	国道12号線沿い	道路
15647	キツツキ	キツツキ	アカゲラ	オス	成鳥	2015.6	交通事故	脳震盪	放鳥	江別市大麻	道路
14975	スズメ	スズメ	スズメ	不明	雛	2015.7	誤認保護	—	死亡	江別市文京台	大学構内
15681	スズメ	スズメ	スズメ	不明	雛	2015.8	誤認保護	—	死亡	江別市文京台	大学構内
15813	タカ	タカ	トビ	不明	不明	2015.11	衰弱	元気消失、起立不能	死亡	札幌市	公園
16005	スズメ	カラス	カラス	不明	成鳥	2016.5	飛行不能	右翼外傷、飛行不能	死亡	江別市内	不明
16154	タカ	タカ	トビ	不明	不明	2016.8	交通事故	右上腕骨開放骨折、ハエウジ症	死亡	南幌町	不明
16212	フクロウ	フクロウ	トラフズク	不明	不明	2016.10	飛行不能	飛行不能、起立不能、右翼下垂	死亡	江別市大麻	市街地
16437			不明	不明	雛	2017.5	不明	不明	不明	江別市文京台	大学構内
不明	タカ	タカ	トビ	不明	雛	2017.6	不明	元気消失	引き取り	不明	不明
16540	スズメ	スズメ	スズメ	不明	成鳥	2017.7	外傷	左翼出血	死亡	江別市文京台	大学構内
16913	スズメ	カラス	ハシブトガラス	不明	成鳥	2018.2	衰弱	右前腕骨骨折	脱走	不明	不明
16918	フクロウ	フクロウ	フクロウ	不明	不明	2018.4	衝突	斜頸	安楽殺	江別市大麻	市街地
17311	フクロウ	フクロウ	コミミズク	不明	不明	2018.10	不明	左上腕骨開放骨折	不明	江別市	不明
17560	ツル	クイナ	バン	不明	不明	2019.7	不明	衰弱、栄養失調	死亡	不明	不明
17580	アマツバメ	アマツバメ	ハリオアマツバメ	不明	雛	2019.8	育児放棄	—	引き取り	不明	不明
17581	アマツバメ	アマツバメ	ハリオアマツバメ	不明	雛	2019.8	育児放棄	—	引き取り	不明	不明
17684	カモ	カモ	オオハクチョウ	不明	不明	2019.9	飛行不能	右翼異常	放鳥	江別市大麻	市街地
18174	ハヤブサ	ハヤブサ	ハヤブサ	不明	成鳥	2020.9	飛行不能	右翼外傷・下垂、飛行不能	引き取り	江別市角山	市街地
15723	翼手	ヒナコウモリ	コテングコウモリ	不明	不明	2015.1	衰弱	橈骨開放骨折	死亡	札幌市厚別区	農地
15905	食肉	イヌ	タヌキ	オス	不明	2016.4	衰弱	衰弱、疥癬	死亡	江別市篠津	農地
16153	食肉	イヌ	タヌキ	オス	幼獣	2016.8	衰弱	努力性呼吸、元気消失、脱水	安楽殺	江別市文京台	農地
16156	食肉	イヌ	タヌキ	不明	幼獣	2016.8	捕獲	—	放鳥	江別市文京台	大学構内
16588	食肉	イヌ	タヌキ	不明	不明	2017.11	衰弱	右前肢骨折	死亡	江別市野幌	森林
17940	食肉	イヌ	タヌキ	不明	不明	2019.11	不明	不明	死亡	江別市文京台	大学構内
17941	食肉	イヌ	タヌキ	不明	不明	2019.11	不明	不明	不明	江別市文京台	大学構内

表 2. 2015～2020年度にWAMCに搬入された救護個体の分類

スズメ目	カラス科 スズメ科	ハシブトガラス (1)	ハシボソガラス (1)	カラス (1)
タカ目	タカ科		スズメ (3)	
カモ目	カモ科		トビ (3)	
フクロウ目	フクロウ科	フクロウ (1)	オオハクチョウ (1)	
アマツバメ目	アマツバメ科		トラフズク (1)	コミミズク (1)
ハヤブサ目	ハヤブサ科		ハリオアマツバメ (2)	
キツツキ目	キツツキ科		ハヤブサ (1)	
ツル目	タイナ科		アカゲラ (1)	
不明			バン (1)	
不明			不明 (1)	
翼種目	ヒナコウモリ科		コテングコウモリ (1)	
食肉目	イヌ科		タヌキ (6)	

( ) : 救護個体数

表 3. 2015～2020年度にWAMC搬入個体の救護された原因

	鳥類	哺乳類
自然的要因	4	4
衰弱	2	4
育児放棄	2	0
人為的要因	6	1
交通事故	3	0
誤認保護	2	0
衝突	1	0
捕獲	0	1
不明	9	2
飛行不能	4	-
外傷	1	0
不明	4	2

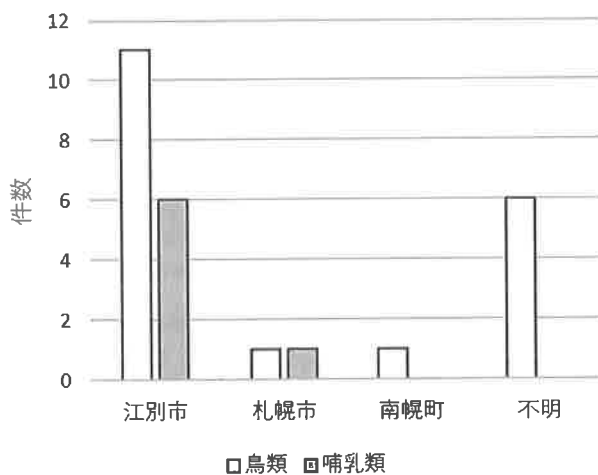


図 1. 2015～2020年度にWAMCに搬入された救護個体の地域別救護件数

18174) は交通事故の可能性が高かった。また、外傷ではあるもののスズメ (AS16540) は保護された場所が大学構内で、建物のガラスへの衝突が疑われた。収容された鳥類では10件で死亡または安楽死処置であり、放鳥2例、環境省などへの引き取り4件であった。

### 2014年度以前の記録との比較

WAMC創設直前の2003～2010年度の計67件<sup>[2]</sup> (年平均8.4件) と2011～2014年度の計39件<sup>[3]</sup> (年平均9.8件; 図2および3) に、今回の2015～2020年度の事例数26件 (年平均4.3件) を加えると計132件 (年平均7.7件) となる。したがって、今回の事例数は、以前のものに比べると、年平均数が半減したことが注目された。救護数の増減については、古瀬ら<sup>[3]</sup>が江別市周辺の環境変化や人間活動の影響する可能性に言及していた。確かに、2020年度の救護件数がハヤブサ1件 (WAMCでは暫定的に飼養し、環境省の委託施設に移送) に留まることは、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い人間の活動が減少したことを強く反映したものと考えられた。しかし、他の年度、たとえば、2018年度でも大きく減少していたが、その原因は不明であった。なお、これら救護件数は、あくまでも、自治体などの依頼による正規ルートに則り、WAMCに搬入、正式に登録されたカルテに基づくものである。したがって、WAMCのメンバーが、偶然、野外で遭遇し、比較的短時間で、無事、放鳥できたケースなどはカウントされていない。実際、2020年度だけでも、前述した件以外にヒヨドリとアオジ (各1件) を経験している。もし、このような事例が恒常的に他の年度でもあるならば、WAMC搬入実数は、明示された数の3倍以上はあると想像される。

一方、救護原因が人為的要因が多い点と転帰が死亡・安楽殺の割合が高い点は例年通りである (図4～7)。しかし、最近では放鳥獣割合の低下、救護原因などが不明なもの目立つ傾向にあった。傷病鳥獣の第一発見者との連携により詳細を記載することが怠っていた部分もあり改善点となった。また、臨床技術面では、北海道獣

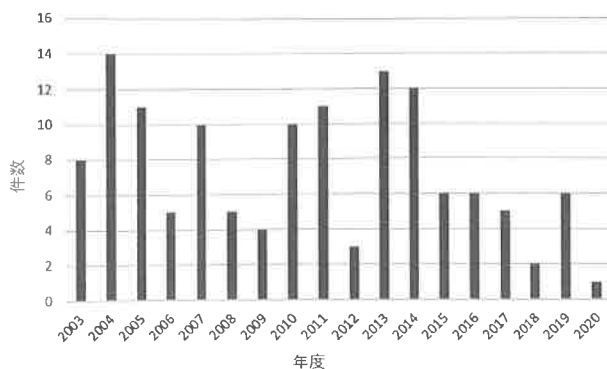


図2. WAMCに搬入された全救護個体の年度別内訳



図3. WAMCに搬入された全救護個体の鳥類・哺乳類の内訳

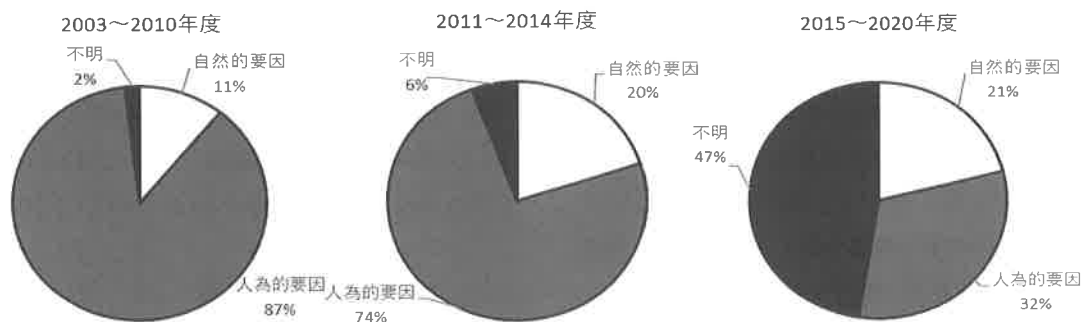


図4. WAMCに搬入された鳥類の救護原因

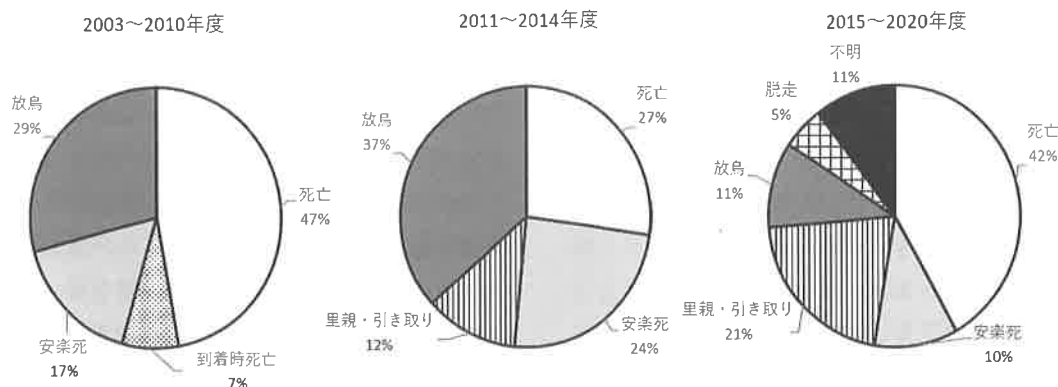


図5. WAMCに搬入された鳥類の転帰など

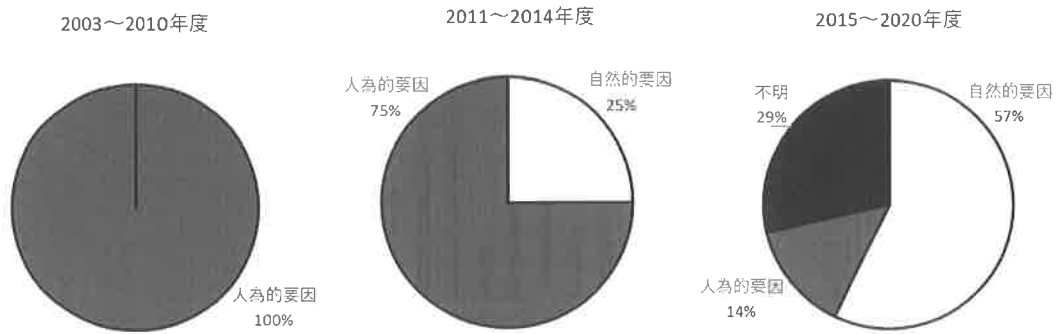


図6. WAMCに搬入された哺乳類の救護原因

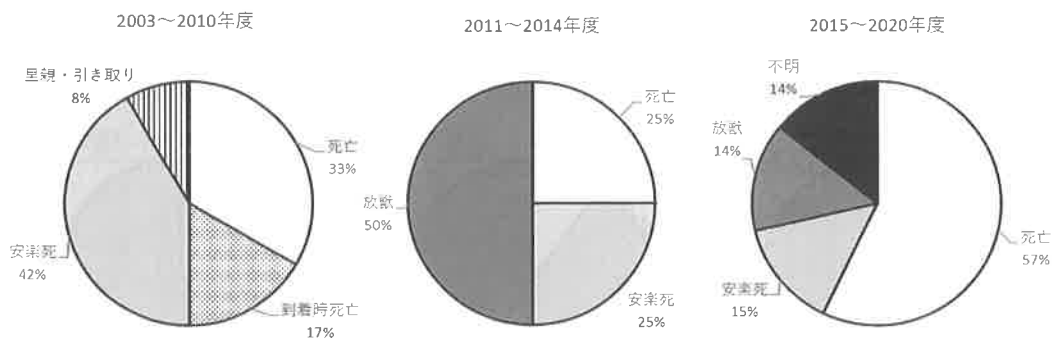


図7. WAMCに搬入された哺乳類の転帰など

医師会の皆様にご支援・ご指導頂ければ幸いです。

### 引用文献

- [1] 浅川満彦、谷山弘行：獣医師会・行政組織・大学・研究機関との連携による調査体制と酪農学園大学野生動物医学センターの役割、北獣会誌、48、424-429 (2004)
- [2] 吉野智生、上村純平、渡邊秀明、相沢空見子、遠藤

大二、長 雄一、浅川満彦：酪農学園大学野生動物医学センターWAMCにおける傷病鳥獣救護の記録 (2003～2010年度)、北獣会誌、58、123-129 (2014)

- [3] 古瀬歩美、牛山喜偉、平山琢朗、吉野智生、浅川満彦：酪農学園大学野生動物医学センターWAMCにおける傷病鳥獣救護の記録 (2011～2014年度)、北獣会誌、59、184-187 (2015)